

頓原肥育センター存続を

A 関係者と検討



永井 章議員
町長は9月定例議会において和牛振興は必要であり、行政の関わり方も

含め、JAに新たな視点で経営を検討するよう要請していると報告した。現在の検討状況は。頓原肥育センターの施設は、今後も十分活用できる状態にあり、飯南町和牛振興を推進する当り、重要な役割を持つていると思う。



頓原肥育センター

山崎英樹町長
奥出雲和牛ブランドを維持、発展させるため、6肥育センターの運営を継続していくよう、JA雲南に対し、1市2町連名で要請していた。JAの回答は、肥育事業はこれまでの方針どおり、吉田・仁多2肥育センターのみで継続。横田・頓原の肥育センターは地域の担い手や集落営農組織等による繁殖・肥育施設として活用するほか、キャトルステーションとして利用をめざす。

三刀屋・赤来のセンターは、JAによる運営は困難との回答だった。これを踏まえ、JAや関係者と一緒になって検討を進めていく。

※【キャトルステーション】(共同子牛育成施設)とは、繁殖農家から3〜4カ月齢の離乳した子牛を預かり、子牛市場に出荷するまでの間、飼養管理・育成する施設。

来島ダム水利権契約更新は

A 更新申請はまだ提出されていない

永井議員
来島ダムの水を利用して発電する中国電力の水利権が、平成25年3月で、30年ぶりに更新時期を迎える。

更新にあたって、「神戸川河川環境に関する専門委員会」・「神戸川来島ダム水利権など調整委員会」・「神戸川再生推進会議」があり、本町から副町長が出席しているが、検討状況を問う。

景山登美男副町長

平成25年4月以降の水利権の更新申請は中国電力から国土交通省へ提出することになっているが、まだ提出されていない。2つの委員会は、水利権の更新については、当委員会では議論すべき問題では無いとしている。また、本町は神戸川再生会議には参加していない。

更新に際した考えは

A 総合的に判断する

永井議員

現在の来島ダムの状況は、放水量が限定されることで水質が悪化し、魚類の繁殖など、自然環境にも影響があると言われている。更新にあたって町長の考えは。

飯南町は、議会や流域の関係者から意見を聞き、総合的に判断し、回答すべきと考えている。

山崎町長

水利権更新申請はまもなく国土交通省へ提出されると思っっている。その後、国土交通省から島根県、そして県から飯南町へ意見照会があると聞いている。

一般質問

町政を問う

12月定例会

医療従事者助成制度の拡充を

A 前向きに検討



伊藤好晴議員

町が定めている医療従事者確保対策助成金交付要綱の範囲拡大について、第1条にある「飯南病院等」の等は何を指すものか。範囲を明記すべきだ。

山崎英樹町長

飯南町内の全ての医療機関及び、各介護施設を想定したものであり、医療従事者は、飯南病院だけでなく町内全体のことである。今後、要綱の改正は検討する。

伊藤議員

助成金の交付対象者は、医師、歯科医師、薬剤師、保健師及び看護師ということだが、例えば放射線技師、理学療法士、歯科衛生士などの職種も対象に拡大すべきと考えるが。



町内の歯科医院

いじめへの対応は

A 情報発信に努める

伊藤議員

全国各地で「いじめ自殺」発生が報じられている。いじめは「暴力」「人権侵害」であると考えられているか。

安部 巨教育長

「いじめ」の定義については、一定の人間関係にある者から、心理的、物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているものである。すべての人間が、個人の尊厳と基本的人権を持つているのであり、そのことを著しく傷つける行為は許されるものではないと考える。

伊藤議員

いじめが実際に起きたときの対応はどのようにすればよいのか。専門家への連携はどう考えるか。

安部教育長

日ごろから児童相談所や警察、また医療機関も含めて努力している。いじめの未然防止、問題の発見と解決、事後の見守り、全てを通じて各関係機関の役割を明確にしながら対応できるように努力している。

伊藤議員

目の前のいじめから子どもたちを守る。それには全国的なこの問題を解決した経験を学ぶことが大切で、「いじめ」の拡大を、教育と社会の構造的な問題と捉えて是正していく努力をすることが重要と考えるが。

安部教育長

児童生徒の実態を正しく把握していくこと、それに応じて適切な対応をすること。また、全町民が同じ思いでいじめ問題を解決していくという努力が重要であると考えている。そのために、学校、教育委員会からも情報発信に努めたい。